



歴史を読み解く おもしろさに 心はワクワク!

自分でテーマを選んで学ぶ

学校で学ぶ歴史は、受験のために年代や人名の記憶に追われて、苦手になる人も多いのでは。しかし歴史を紐解き、読み取ることが、私たちの未来や現代に学ぶことがたくさんあります。そんな歴史の深さやおもしろさを学べるのが、桑原恵（くわばら めぐみ）教授、衣川 仁（きぬがわ さとし）准教授のゼミです。

3年生の講義で、先生方から様々な歴史を学ぶ中で、学生は自分の興味を持ったテーマを見つけ、研究に取り組んでいきます。今回、研究室を紹介してくれる「歴女」たちも、それぞれが全く違うテーマを持っています。一つのテーマを追求していくこともおもしろいのですが、お互いに学んだことを話し合う中で、いろいろな意見を出し合うのも楽しみです。

桑原先生は江戸時代を中心に、衣川先生は平安から鎌倉時代にかけて研究されています。

歴史から学ぶもの

田中さんは公務員試験をきつ

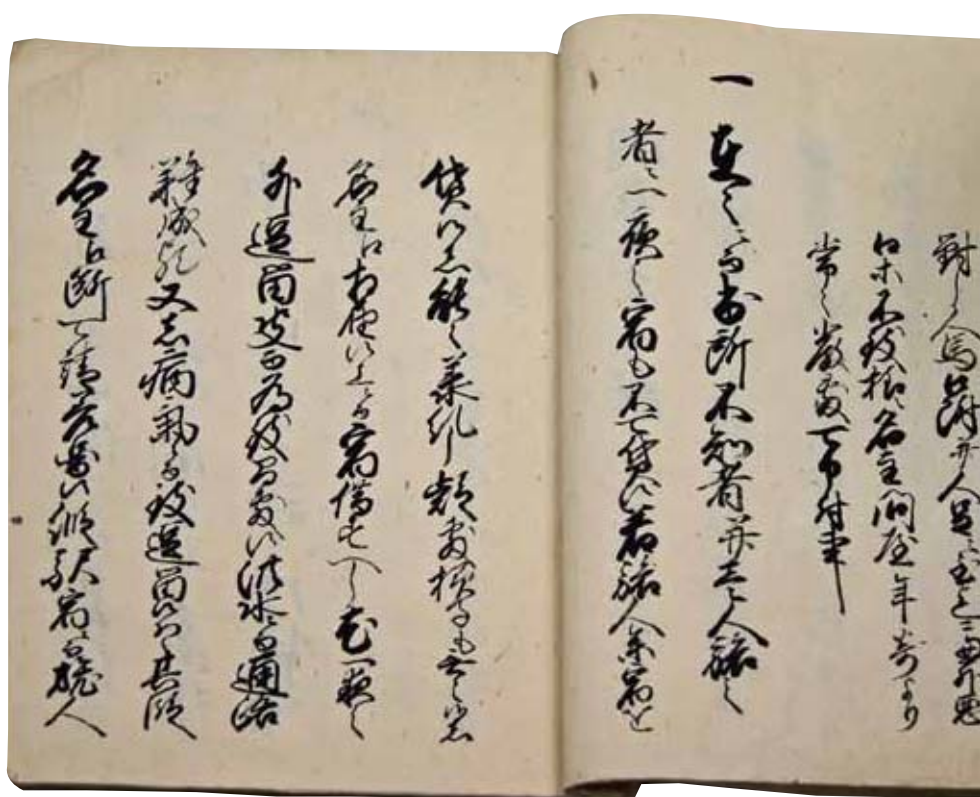
けに、江戸時代の徳島藩の裁判制度について研究しています。

「法律について興味を持ち、当時の判決の仕方、どんな身分の人たちが訴訟したかなど、性別や身分によって刑罰が違っていたり、現代の常識では通らないこともあり、とてもおもしろいです」

さらに物事を一面からでなく、多角的に研究することが大事であることを学んだそうです。

中村さんのテーマは江戸元禄期の心中事件です。

「心中と言えば、男女などが一緒に自殺するという暗いイメージがありますが、調べてみるとただ死ぬという意味ではないんです。文字通り、心の中、つまり気持ちを表す言葉なんです。男女だけでなく、親子や友人など、相手に対する思いや誠意のことを指し、究極的に死を選ぶ、ということもある



総合科学部人間社会学科
アジア研究コース4年
写真右より

田中 静香 (たなかしずか)
中村 淳子 (なかむらじゅんこ)
佐藤 愛子 (さとうあいこ)
林 未来 (はやしみく)

とということですが、死生感に興味を持ち、歴史を通じて、「生きる」とは何かを学んでいます。

歴史は時として為政者や権力者の都合の良いように書かれてしまっていることがあります。佐藤さんはそのような歴史に、違った角度からアプローチしようとしています。

「室町時代に興味を持ち研究していますが、室町幕府や鎌倉府の権力争いの中で、在地の大名が自分の家系を守るために、どのような選択をしていたかなどを調べています。そこから、在地の大名が、当時の権力に対して強い独立心、自立性を持っていたことがわかります」

林さんは、歴史を民衆の側から見てみたいと、宝暦（江戸時代後期）、徳島の石井町高原で起きた五社宮一揆（ごしゃのみやいっき）と呼ばれる百姓一揆に着目。「葉藍に対する過酷な税金が課せられ、従来自由になれるとされていた藍師の員数が株により制限され、さらに凶作となった中で、広範囲の農民が一致団結して起こり、後に義民物語にもなった事件ですが、よく調べると従来のイメージと少し違うということがわかってきました」

歴史を研究する上で、欠かせな



い資料となるのが、残された様々な文献、書物などが、書いた者の視点がどこにあるかで全く逆の内容にもなってしまうことを彼女たちは学び、かつ事実を知ろうと深く踏み込んでいきます。まさに歴史のおもしろさ、研究の醍醐味はそこにあると言ってもいいでしょう。

教科書では学べないもの

少人数で和気あいあいとしたアットホームなゼミの雰囲気。ちよっぴり厳しくははつきりものを言う桑原先生とフォロワー役の衣川先生の絶妙なコンビ。共にどこまでも面倒見がよいのが共通点。

「お二人ともどんなに忙しくても、私たちのために時間をさいて下さいます。桑原先生は、公務員試験の時にはお忙しい中、面接の練習までして下さいました。衣川先生は何時間でもじっくり話を聞いて下さいます」(田中)

「ゼミで資料の収集や整理を手伝うために徳島城博物館や県立文化の森の文書館に出かけますが、教科書では学べないことをたくさん学べます」(林)

「ゼミでは必ず自分の研究についてみんなの前で発表するので、人前で話すことが鍛えられ、社会に



出ても役に立ちます」(佐藤)

「歴史、特に日本史は苦手、あまり興味がない、という人もこのゼミに来ればきつと歴史の面白さを知ることができ、ためにもなりますよ」(中村)